

* * *

学 会 記 事

* * *

§ 平成 23 年第 1 回日本核医学会理事会
議事録

日 時：平成 23 年 2 月 7 日 (月)
12 時 00 分～16 時 00 分
場 所：日本アイソトープ協会 第 3 会議室

出席者：

理事長：玉木長良
理 事：油野民雄，荒野 泰，伊藤健吾，
井上登美夫，尾川浩一，絹谷清剛，
汲田伸一郎，桑原康雄，小泉 潔，
穴戸文男，千田道雄，中川原譲二，
西山佳宏，畑澤 順，本田憲業，
望月輝一

監 事：小須田茂，阪原晴海

幹事長：志賀 哲

事務局：神田正子

欠席者：

理 事：佐々木雅之，竹田 寛，山崎純一
(敬称略)

議題

I. 審議事項

- 放射線防護委員会「PET 用サイクロトロンに関するクリアランスおよび放射化物質の取り扱いに関する小委員会」(略称 放射化小委)発足について (千田道雄理事)
玉木長良理事長から委員会の発足に関して大まかな説明があった。つづいて千田道雄理事から資料 1 に従い説明があり小委員会の発足が承認された。
引き続き資料 (番号なし) に従い千田理事から説明があった。

- 活動が 2 年半であることについて質問があり，必要に応じて延長する旨の説明があった。
- 賛助会員のメンバーズベネフィット(特典)について (小泉潔理事)
小泉潔理事から資料 2 に従い説明があった。
核医学会総会のランチョンセミナー・展示会，学会誌での広告等に関係する資料 No. 2 の 3), 4), 5) に関しては核医学会総会事務局・JIRA・医学広告社等との調整が必要であるとの意見がだされ，検討課題として残された。
資料 No. 2 の 1), 2) に関しては問題がないとのことであったが，ワークインプログレスを開催する時にはワークインプログレスに優先的に発表できるとの表現にすることとなった。また，雑誌の配布は受ける旨は記載しておくこととなった。
 - 口腔顎顔面核医学フォーラムからの学術総会合同開催依頼 (小須田茂会長)
小須田茂理事より資料 3 に従い説明があり，学術総会合同開催が承認された。
 - その他
特になし。

II. 報告事項

- 第 51 回学術総会準備状況報告 (小須田茂会長)
資料 4 に従い小須田茂理事から詳細な報告があった。
- 第 52 回学術総会準備状況報告 (玉木長良次期会長)
玉木長良理事長から資料(資料番号なし)に従い，2012 年 10 月 11-13 日に札幌で開催される旨の説明があった。

3. 第 53 回学術総会準備状況報告

(桑原康雄次々期会長)

桑原康雄理事から 2013 年 11 月 8-10 日に福岡国際会議場で行われる旨の説明があった。

4. 第 11 回春季大会準備状況報告

(玉木長良大会長)

玉木長良理事長から 5 月 6-8 日に大阪国際交流センターで行われる旨の説明があった。

5. 会計報告

(油野民雄理事)

油野民雄理事から資料 5 に従い説明があった。「収入は科学研究費と総会の収入に依存していること」、「例年と変わらないこと」の説明があった。

6. 委員会報告

1) 編集委員会

(絹谷清剛理事)

資料 6 について絹谷清剛理事から報告があった。

ANM 年間最多引用論文賞の設立について、承認された。

上位 5 名くらいには証明書を送付してもよいのではないかと意見がだされ、詳細については編集委員会で引き続き検討していただくこととなった。

2) 教育・専門医審査委員会

(汲田伸一郎理事)

資料 7 に従い汲田伸一郎理事から説明があった。

PET 核医学認定医の更新料に関して案が示された。更新料の設定につき議論があったが、原案のまま承認された。

次年度からは専門医試験は各論の選択枠がなくなり、全領域からの出題になる旨の説明がなされた。専門医試験について「専門医試験の合格率がほぼ 100% は批判が多い」「今後面接はどうするのか？」等の意見がだされた。

内用療法について日本医学放射線学会との関係、放射線治療専門医が内用療法についてどうするか議論があった。引き続き討論していただくこととなった。

また、日本核医学会の立場をどのように考えていくかについて議論があった。

3) PET 核医学委員会 (宍戸文男理事)

宍戸文男理事から次回のテーマはメチオニンの臨床応用に関するものにしたいたとの説明があった。

また、日本アイソトープ協会とともに Q and A の改訂版を作成しており、今年中の完成を目標にしているとの報告があった。

4) 健保委員会 (8)(伊藤健吾理事)

伊藤健吾理事から資料 8 に従い要望事項に関しての説明があった。8-1 の ~ に関して了承された。「炎症についてはサルコイドーシスを入れてはどうか?」「脳血流量に関し日本脳卒中学会は技術料を上乘せするよう要望するが、日本核医学会はどうするのか」等の意見がだされた。

エキスパートパネルへの日本核医学会の協力に対し承認された。

川野剛先生が健保委員会の委員になることが承認された。

5) 広報委員会 (9)(尾川浩一理事)

資料 9 に基づき尾川浩一理事から説明があった。

賛助会員に対して、ホームページに掲載する名簿の閲覧の可否が議論され、閲覧可とすることが承認された。

掲載内容については、会員本人に確認をとり、承諾を得た内容のみ開示することとなった。核医学誌に、名簿に関しての説明を掲載することとなった。

6) リスクマネジメント委員会

(望月輝一理事)

報告事項は特にないとのことであった。

7) 放射線防護委員会 (本田憲業理事)

本田憲業理事から医学研究におけるボランティアの被ばくについてのガイドラインを今年中に作成したい旨の説明があった。

8) 倫理検討委員会 (竹田寛理事)

- 9) 学会賞選考委員会 (10)(桑原康雄理事)
資料 10 に従い桑原康雄理事から報告があった。英語版はホームページにすでに掲載しているとのことであった。
- 10) 放射性医薬品臨床評価ガイドライン作成委員会 (荒野泰理事)
荒野泰理事より現在パブリックコメントがでるのを待っている段階であることの説明があった。
- 11) 核医学認定薬剤師に関する検討委員会 (荒野泰理事)
荒野泰理事から資料 11 に従い説明があった。ガイドラインの運用に関しては今後の課題であること、対象はすべての放射性医薬品であり、PET 用の院内製剤に関しては一緒にしたい旨の説明があった。
- 12) 将来計画委員会 (畑澤順理事)
畑澤順理事から会員の増加を目指すことを最大のミッションにしていることの説明があり、議論がなされた。
小須田理事から女医の会を発足しているとの報告があった。
- 13) 分子イメージング戦略会議 (12)(井上登美夫理事)
井上登美夫理事から資料 12 に従い説明があった。厚生労働省に分子イメージとしての院内製造による PET 検査のあり方に関する意見交換を要望していくことの説明があった。メチオニンの合成装置に関する件は暗礁にのりあげているとの説明があった。
- 14) PET 用サイクロトロンに関するクリアランスおよび放射化物質の取り扱いに関する小委員会 (千田道雄理事)
審議事項 1.1 の時に説明済み。
7. ワーキンググループ (油野民雄理事, 千田道雄理事)
報告事項は特になしとのこと。
8. 分科会活動
- 1) 腫瘍・免疫核医学研究会 (絹谷清剛理事)
絹谷清剛理事より第 11 回春季大会で第 2 回 I-131 (1,110 MBq) による残存甲状腺破壊 (アブレーション) の外来治療における適正使用に関する講習会を行うこと、岬先生主催で 5 月 7 日に研究会が開催されることの報告があった。
- 2) 日本脳神経核医学研究会 (畑澤順理事)
畑澤順理事より第 50 回学術総会の時に小児核医学というテーマで開催したこと、第 51 回学術総会に合わせ開催されることの報告があった。
- 3) 日本心臓核医学会 (玉木長良理事長)
玉木長良理事長より地域別の研修会が順調であること、6 月 24, 25 日に福岡にて次回開催を予定していることの報告があった。
- 4) 呼吸器核医学研究会 (竹田寛理事)
小須田茂理事から DPC に関するパンフレットを 2,500 部作成したとの報告があった。
今回は 4 月 16 日大阪マルビルにて開催予定との報告があった。
- 5) PET 核医学分科会 (13)(千田道雄理事)
千田道雄理事より資料 13 に従い説明があった。
9. 国外学会等連携 (桑原康雄理事, 油野民雄理事, 畑澤順理事)
- 1) 世界核医学会
玉木長良理事長からケープタウンで行われた旨報告があった。3 年後はメキシコで開催される予定との報告があった。
- 2) 米国核医学会
玉木長良理事長から鳥塚ワグナーフェローシップは続いており、ジョイントセミナーは今年は循環器のテーマで採択されている旨の報告があった。

- 3) アジアオセアニア核医学会
(ARCCNM 兼務) (14)(畑澤順理事)
資料 14 に従い畑澤順理事から説明があった。内用療法が話題になっていたこと、次回は 11 月にホーチミンで行われる予定であること、日本核医学会への期待が大きい等の報告があった。
- 4) 日韓中核医学会
小須田茂理事から日本からも演題をたくさんだしてほしいとの要望があった。
10. その他
- 1) モリブデン-99/テクネチウム-99m の安定供給のための官民検討会
(15)(井上登美夫理事)
井上登美夫理事から資料 15 につき報告があった。5 年後以降の中長期後の安定供給につき検討が行われているとのこと、治験をどうするかが問題になっていること、今のままだと標識された製剤のみの話になりそうであること等が説明された。ジェネレータの供給にも配慮してほしいとの意見がだされた。
- 2) 日本核医学専門技師認定機構
(16)(小泉潔理事)
小泉潔理事から資料 16 に従い説明があった。
- 3) JJ1017核医学拡張につきまして
(本田憲業理事)
小泉潔理事が、奥真也先生から報告を読み上げた。
内容は以下の通り
JJ1017 核医学拡張について JJ1017 委員会で審議が行われ承認された。完成後の名称は「JJ1017ver.3.2」と決定した。今後 JST が中心となり public comment, JJ1017 としての HELICS 化を進めていくこととなった。本拡張, 改め JJ1017ver.3.2 への public comment 募集の周知については核医学会のサイトやメーリングリストにてお願いしたい。お願い事項は改めて整理して送るとのこと。
- 4) 評議員選挙
評議員選挙につき玉木長良理事長から説明があった。
- 5) 学術総会の引き継ぎについて
小須田茂理事から第 51 回学術総会時に学術総会主催者による総会業務について検討するための会合を開催するとの報告があった。
- III. 確認事項
1. 前回議事録(案) (17)